

# 半導体漫遊記

## 湯之上隆

2016年以降、多くのメモリメーカーの業績が絶好調となっている。

韓国のサムスン電子は、16年第1四半期から17年第2四半期にかけて、売上高が92.3億ドル↓154.6億ドル(1.67倍)、営業利益は21.8億ドル↓70.6億ドル(3.24倍)になった。

同じく韓国のSK Hynixは、売上高が30.3億ドル↓58.9億ドル(1.94倍)、営業利益は4.7億ドル↓26.8億ドル(5.76倍)になった。

米マイクロン・テクノロジは、売上高が30.0億ドル↓61.4億ドル(2.04倍)、営業利益は0.27億ドルの赤字から25.0億ドルの黒字になった。ところが、東芝メモ

NANDのみをビジネスとしていたことだ。第二に、東芝は、昨年末に発覚した米原子力事業の巨額損失による債務超過を回避するために、東芝メモリを売却することになった。その売却先を決定するまでに9カ月を要した。その間に、四日市工場をNANDを共同

開発している米ウエスタンデジタル(WD)が、「東芝メモリ売却差し止め」の裁判を起こすなどゴタゴタが続いた。その結果、ここ半年ほど、設備投資が滞ってしまっただけで、DRAMについては、実質的に、サムスン電子、SK Hynix、マイクロンの3社に集約されてしまっ

た。DRAMは、P C、スマホ、サーバーなどに使われるが、需要が供給を上回っている。その結果、DRAM価格の高値が続いている。これが、メモリメーカーの売上高や営業利益の向上につながっている。ところが、東芝メモリだけはDRAMをつくっておらず、この恩恵にあずか

ることができない。一方、ビッグデータの普及によりオールラッシュサーバー市場が急成長し、さらにスマホに搭載するNAND容量が増大しているため、NANDはつくってもつくっても足りない状態が続いている。従来メモリは、数年ごとに好況と不況を繰り返すシリコンサイクル

### 東芝メモリだけが減収に

### スーパー・サイクルに乗れ

第7棟を建設し、岩手県北上市にも新製造棟を建設する。

メモリ市場には、強烈な追い風が吹いている。この機に乗じて、他のメモリメーカーが増収増益になる中、東芝メモリだけが、減収増益となった。これはなぜだろうか。その理由は2つ考えられる。

第一に、他のメモリメーカーは、DRAMとNANDの2種類のメモリを製造しているが、東芝メモリだけは

DRAMについて、従来メモリは、数年ごとに好況と不況を繰り返すシリコンサイクル

DRAMは、P C、スマホ、サーバーなどに使われるが、需要が供給を上回っている。その結果、DRAM価格の高値が続いている。これが、メモリメーカーの売上高や営業利益の向上につながっている。ところが、東芝メモリだけはDRAMをつくっておらず、この恩恵にあずかることができない。

— Samsung — SK Hynix — Micron — 東芝

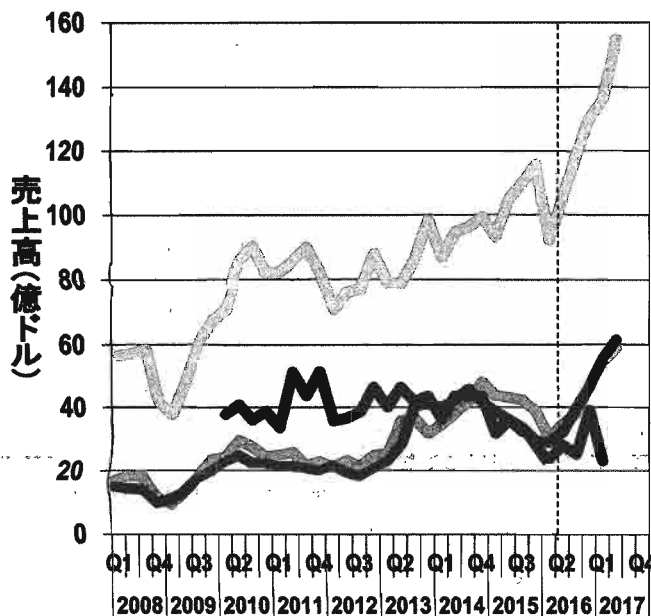


図1A) 四半期毎の売上高

— Samsung — SK Hynix — Micron — 東芝

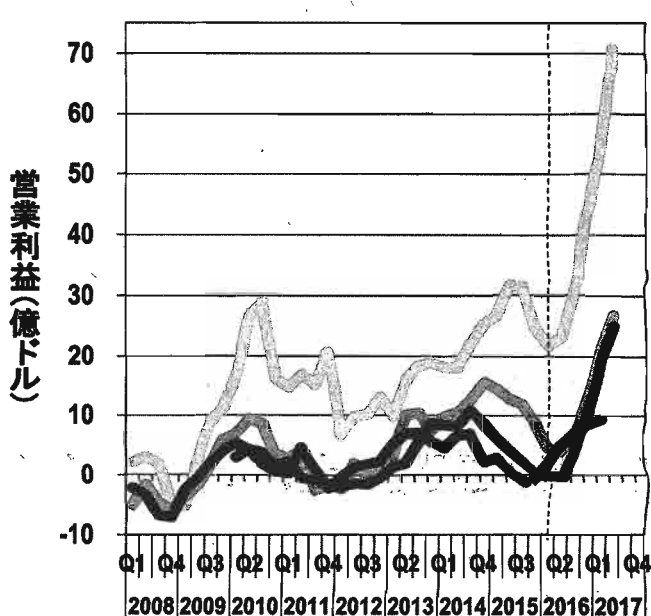


図1B) 四半期毎の営業利益

図1 メモリメーカーの四半期毎の業績